



「人生の苦勞を持ちこたえるには三つのものが役に立つ。希望・睡眠・笑い」

by カント先生



「研究倫理審査委員会」新春ニュースレター第 32 号

新春の候、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今回のニュースレターでは、3 テーマをお届けします。ぜひ、活発な研究を展開していただき、倫理審査申請時にご活用ください。

1. 倫理審査に関わる申請方法の変更について
2. TOPICS！ 最近の研究倫理審査委員会にて
3. 新春コラム 「意志」／「意思」という日本語から見えてくるもの

1. 倫理審査に関わる申請方法の変更について

① **NEW RULE！ 1 月 7 日正午申請から 「倫理講習会受講証明書」も申請書に添付してください**

倫理審査申請をする際に、eAPRIN 受講証明とともに、**有効期限内の倫理講習会受講証明書**を添付することになりました。**2025 年 1 月 7 日（火）正午申請時**から開始します。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」では、研究者等は研究の実施に先立ち、研究に関する倫理並びに当該研究の実施に必要な知識及び技術に関する教育・研修を受けなければならない。また、研究期間中も適宜（1 年に 1 回以上）継続して教育・研修を受けなければならない（48 頁）」としています。すでに倫理審査を経て学長の研究実施許可を得ている場合でも、今年度の倫理講習会を受けないで研究を継続できませんのでご注意ください。

② **研究が終了したら！「研究終了報告書」を提出しましょう**

倫理審査をうけた研究が終了した際には、**「研究終了報告書」の提出**が必要です。「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」では、終了 3 か月以内に、「研究責任者は、研究を終了（中止の場合を含む）したときは、その旨及び研究結果の概要を文書又は電磁的方法により遅滞なく倫理審査委員会及び研究機関の長に報告しなければならない。（62 頁）」としています。「研究を終了したとき」は、研究計画書に記載された研究の期間が満了した時のほか、研究を中止し、再開の見込みがない時含まれます。研究期間が変更になった際には、研究計画書の軽微な変更になりますので、迅速審査に申請してください。教員の他、必要時大学院生も研究終了後に**「研究終了報告書」を、研究倫理審査事務担当窓口にご提出ください。**

③ **そろそろ異動の季節。多機関共同研究の所属変更の迅速審査申請とともに、研究終了報告書も忘れずに**

多機関共同研究の一括審査を本学で受けている場合、**研究者の他研究機関への異動や、研究代表者・研究責任者の交代**は、研究体制の変更が生じるので**迅速審査へ申請**する必要があります。また、研究代表者は、研究終了について**倫理審査を受けた研究機関および現所属の研究機関の、倫理審査委員会および研究機関の長に報告すること**になっていますので、**2 か所の研究機関**への「研究終了報告書」提出をお願いします。

2. **TOPICS！ 最近の研究倫理審査委員会にて**

最近、研究倫理審査委員会で修正の指摘をしている事をお知らせします。研究計画書の参考にしてください。「**研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、総合的評価、負担及びリスクを最小化する対策**」

「負担」・「リスク」と「利益」を研究計画書に記載する他、研究対象者への負担、予測されるリスクを最小化し、利益の最大化を可能な限り図ったうえで、負担・リスク及び利益それぞれの**総合的評価**の結果、想定される負担・リスクの総体を**利益の総体が上回るように比較考量**する必要があります。**総合的評価の結果**が研究計画に記載がないことを指摘することがありますので、ご注意ください。

3. 新春コラム 「意志」／「意思」という日本語から見えてくるもの

2024年9月に開催されました倫理講習会の事後アンケートにて、「自由意志」（もしくは「自由意思」）に関する質問を何人かの方からいただきましたので、今回のコラムで取り上げさせていただきます。

ご質問の中で多かったのは、「単純な疑問なのだが「意志」と「意思」という表記の使い分けはどのようになっているのか？」というものでした。たしかに、医療や法律の用語としては「意思」、哲学や心理学の用語としては「意志」が多く用いられる傾向にあります。その違いは、どのようなところにあるのでしょうか。日本最大の国語辞典と呼ばれる小学館の『日本国語大辞典』の説明によれば、「意思」とは、「何事かをしようとする考え。思い。心持」とあります。それに対して、「意志」の方には、「物事をしようとする、またはしまいとする積極的な心ぐみ」、とりわけ「多くの動機、目標、手段から一つを選択し、その実現を意欲すること」とされています。

上の辞書的な説明からも、「意思」と「意志」には、「何かをしようとする考え」という点では共通点があるものの、とくに「意志」の方には、「何か一つを選択する」といった独特のニュアンスがあることが分かります。

上の点に関連して、哲学者による興味深い研究があります（田村均「思想史的概念に関する実験哲学的調査の報告——「近代」、「個人主義」、「意志」——」（『名古屋大学文学部研究論集』第56号、2010年）参照）。この研究では、日本人の大学生500名以上を対象に、「一度に複数の意志を持つことは可能だと思うか？」という趣旨の質問をしたところ、90%以上の大学生が「可能である」と回答したとのこと。これは、「意志」についての上の辞書的な定義である「何か一つを選択する」ということと明確に食い違っています。そして、実はそもそも「意志」の原語である英語の will やドイツ語の Wille には、「一人の人が同時に複数の意志 (wills) を持つことはない」という前提があり、その意味では、「何か一つを選択する」という意味の「意志」は、ヨーロッパ語の will や Wille の意味を正確に写し取ったものとは言えますが、現代の私たちが日常的に「意志」という言葉を用いる際には、その特有のニュアンスはほとんど失われており、「何か一つを」という限定なしに「何事かをしよう」と考える「意思」の方との区別が曖昧になっている、という事情がありそうです。

では、日本語の場合、なぜ「意志 will/Wille」のもつ「何か一つを選択する」・「同時に複数持つことができない」という含意が失われがちなのでしょう。これについて上の論文の著者は、『自己犠牲とは何か』という本の中で詳細に論じていますが、この議論からうかがえることとして、日本文化の中では、「本当は〇〇したいと思っている」が「建前上△△したいということにしておく」といったことが生じやすく、ときには、世間や他者への建前の方が優先されて、後者の△△の方が実際の行為としても選択されがちだ、ということがあります。「意志」／「意思」という日本語の違いは、些末なことのようにですが、少し掘り下げてみると、私たちが暗黙の前提にしている自己決定や自己犠牲に関する考えを見つめ直す機会になりそうです。

（文責：人文科学分野 城田 純平）

* * * * *

倫理審査申請の際には、「ガイダンス」や本ニュースレターに加えて、前年度のニュースレター第28号から第31号にもお目通していただければと思います。来年度の倫理審査日程スケジュールは、できる限り早くお伝えしますのでお待ちください。

神戸市看護大学研究倫理審査委員会
お問合せ等連絡先
委員長 片倉 直子（在宅看護学分野）
katakura@tr.kobe-ccn.ac.jp
事務局担当 平野 由香（経営管理課）
rinri@kobe-ccn.ac.jp